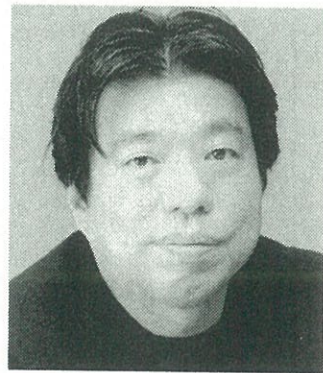


装飾写本、抗生物質の冬、

ボーイズラブ

フランス文学者 鹿島茂



×月×日

例年、九月はなにかと忙しいので、フランス行きはなしという事になって...

機中で読み始めたのが、前川久美子『中世パリの装飾写本―書物と読者』(工...

「それ(写本装飾)は書物のなかにあられる芸術としての独自性をもって...

これは重要な視点である。というのも、装飾写本とその様式を受け継ぐ挿絵...

さて、重要な視点である。というのも、装飾写本とその様式を受け継ぐ挿絵...

「その(常在細菌の)喪失は疾病をもたらす病原体に...

「その(常在細菌の)喪失は疾病をもたらす病原体に...

かしましげる 1949年神奈川県生まれ。明治大学国際日本学部教授。...

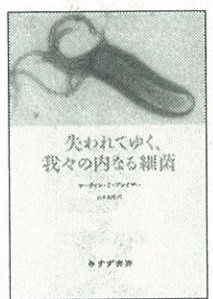
るようだ。入門書にして決定版という稀有な一冊であ...

×月×日

連載のほかに九月は文学賞・学芸賞のシーズンなので読むべき本もたくさんあり、...

しかし、そんな中で読んだマーティン・J・ブレイヤー『失われてゆく、我々の内なる細菌』(山本太郎訳...

間との共生関係にある微生物の群系)研究の第一人者である著者はマーシャル&ウ...



「失われてゆく、我々の内なる細菌」

人研究者と連絡をとりながらピロリ菌が胃がんと深い関係があることを発見、...

せる。一方で、それは胃食道逆流症を抑制し、結果として食道がんの発症を予防...

た、帝王切開は乳児が細菌叢である産道を通過しないために、母から子へのマイ...

D Fは開きにくいばかりか、手動変換も低レベル。それでも締め切りは守らなくてはならないのである。

×月×日

パリでこもりきりで読書に執筆ならまだ許せるが、...

『私の読書日記』は、鹿島茂、立花隆、池澤夏樹、穂村弘、酒井順子の五氏が毎週交代で執筆いたします。